

Sensuで ネットワーク監視やってみた



堀内 晨彦
@hico_horiuchi

Sensuの特徴

- **オープンソース監視フレームワーク**

- 2011年に開発開始
- サーバ、クライアント、プラグインは**Ruby**製

- **従来の「Nagios」の問題点を解決**

- 監視クライアントの自動登録
 - JSON形式の簡素な設定ファイル
 - スケールアウトが容易なコンポーネント構成
- **クラウド**での利用に最適！

Sensuでサーバーのリソースを可視化しよう - 技術評論社
<http://gihyo.jp/admin/serial/01/ubuntu-recipe/0361>

Sensuでネットワーク監視

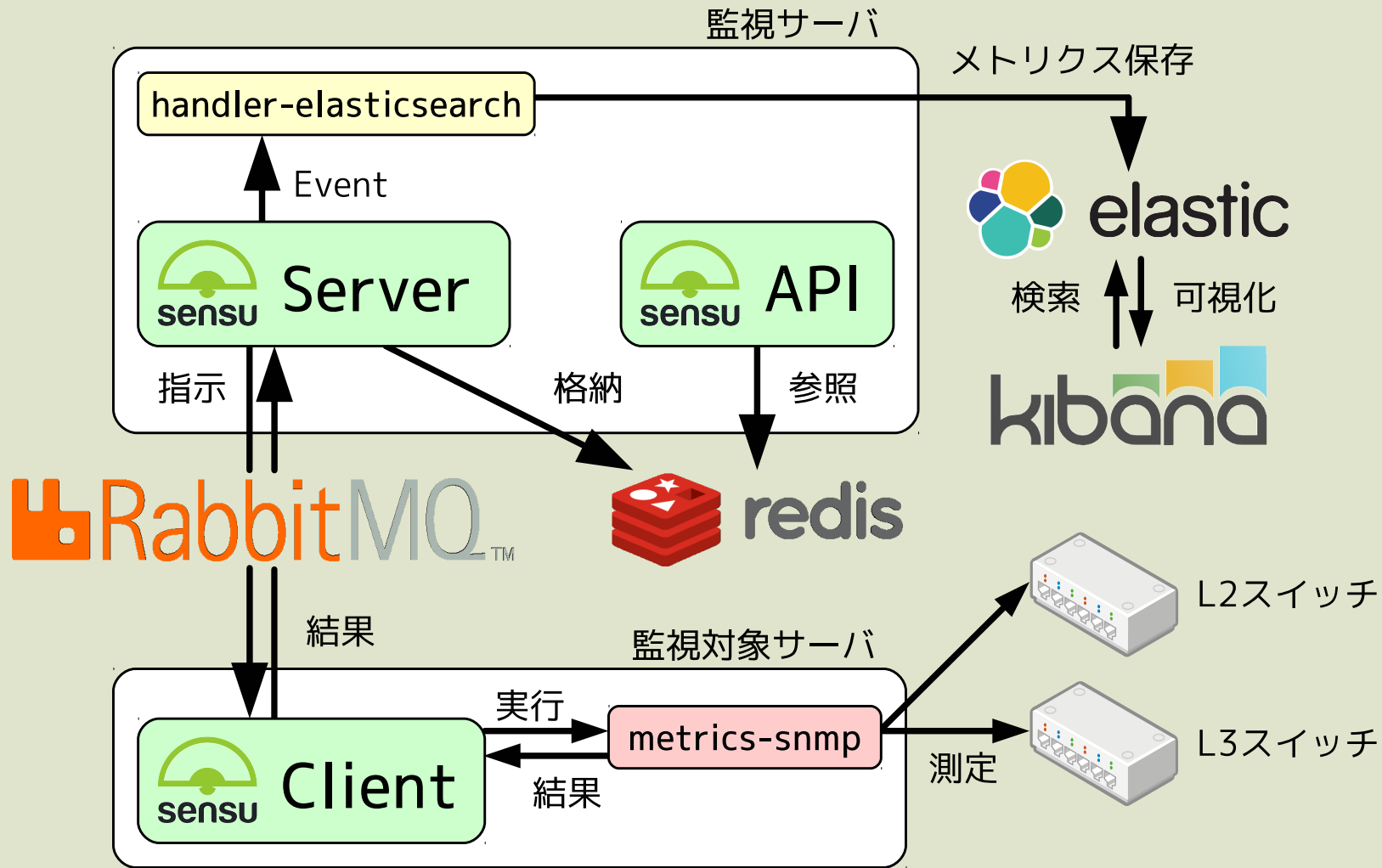
- Sensuで嬉しいこと

- 監視を**一元管理** (サーバ+ネットワーク)
- プラグインやツールを自由にカスタマイズ

- **SNMP**でスイッチの通信量を測定

- スイッチ監視用のクライアントを用意
- **Go**言語でプラグインを実装 (高速、簡単デプロイ)
- **1.3.6.1.2.1.2.2.1.10.x** : 各ポートの受信バイト
- **1.3.6.1.2.1.2.2.1.16.x** : 各ポートの送信バイト
- github.com/hico-horiuchi/sensu-plugins-go

Sensuの構成



Kibanaによる可視化

- 可視化ツール「Kibana」

- Sensuは監視のコアのみ提供
- ElasticsearchのデータをWeb上で可視化

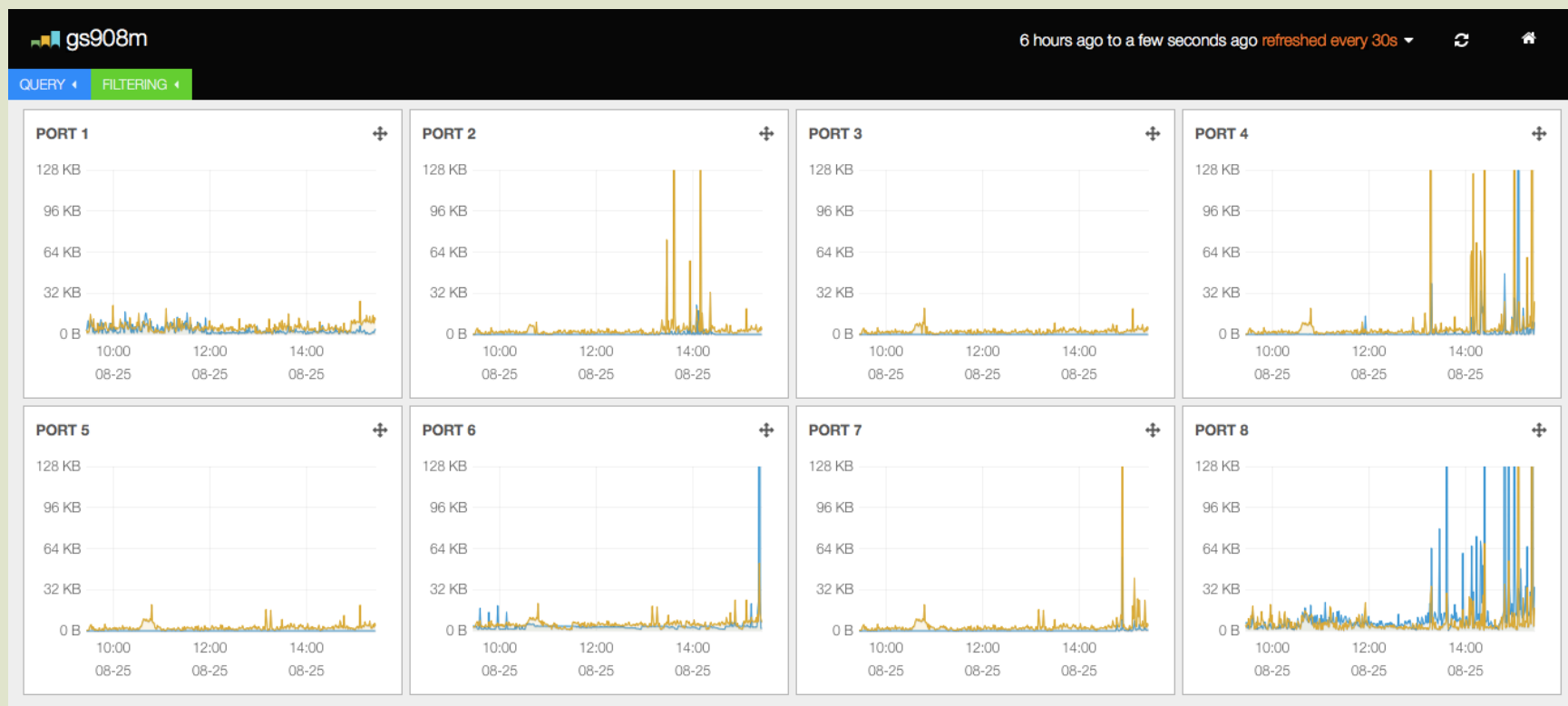
- ダッシュボードは自動生成

- 構成管理ツール「Ansible」を使用
- ポート数に合わせてクエリとパネルを生成
- github.com/hico-horiuchi/ansible-playbooks



15/08/27

ダッシュボード



- 青が受信バイト数、黄が送信バイト数
- 毎秒監視、最新6時間分、グラフの上限は128KB